なな山だより

５４号　2022年1月9日　なな山緑地の会発行

なな山での活動の抱負　　なな山緑地の仲間

ある日、なな山の仕事道を一歩一歩足を運んでいたら、樹が草が、陽を浴び風にそよぎながら、話しかけてきた。
この緑地の人たちは、皆、優しく、穏やかで、共に暮らしていることに、生きがいを感じ、癒されます。こんな関係をこれからも続けたいですね。（相田）

はじめまして　あめみや　ですこの一年焦らず慌てず怪我用心！！＆めかい籠を編もう　よろしくお願いします。（雨宮）

なな山で作業を一所懸命します。（I 田）

此処の良さは人と多彩な植生です。自然と協調できる空間を皆で話し合い、守って次世代に繋ぎたいと頑張ります。 U

今年１年元気で活動に参加します。７月で８５才になり、ここでの最高齢です。仕事は記録写真しかできませんが、「枯木も山のにぎわい」とご容赦ください。（鎌田）

自覚症状のないまま癌の手術を受け、戻ってみれば思わぬ展開の療養ですが、新しい発見の連続です。（S 子）

最近間伐が少なく物足りない。広葉樹は固くて重くて片付けが大変。エンジン式ウインチ買いましょう。（S 田）

私がくず掃き始めたのは 2001 年暮れから、母と一緒に始め今年で 20 年が経ちます。山の堆肥で農作業を続けます。（S 﨑）

昨年、長年勤めてきた会長職を辞しました。約１７年間の長きに渡り務めてこれたのは、皆さんのサポートがあってのことと厚くお礼申し上げます。これからは一会員として少しでも「なな山」の活動に寄与できたらと思っておりますので宜しくお願いします。（髙木）

日本が苦心しているカーボンニュートラル。なな山でどれだけの Co2 を吸収できているのかはわかりませんが、私達の活動が微力ながらも、地球を救ってるんだ～！という自負（壮大な自己満足？）を持って活動したいと思います。（高瀬）

観察農園では、全ての有機肥料で作物を栽培しており、新鮮さと美味しさを目指して、工夫と手入れに励んでいます。（高橋）

苗木を移植し「なな山」を若返らせよう！実生の櫟・コナラ達はその時を待っている。H.D.

ほとんど外出する事なく庭の命を観察して絵を描いた画家に熊谷守一という人がいる。なな山でそのような境地で暮らしたい。（ＮＳ）

ここ 2 年は休みがちだったので、22 年は皆勤を目指します。（N 田）

四季折々なな山に足を運ぶ度に自然の懐に抱かれるように感じます。この幸せが続きますように。nj

東の山を笹の美林にしたいと頑張ります。次にシガラを里山の景観に美しく収まるようにしたいと思っております。（正岡）

今年も植物保護の活動が出来たら、と思っています。でも老いの坂道。無理せずゆっくり、なな山の時間を楽しみたい。（M・M）

山に入り作業をして汗をかく。日頃抱えたムシャクシャが汗と一緒に流れていく。仕事で色々あった２０２１年。なな山が癒しになった１年でした。さあ２２年。今年もなな山で〝トトノエたい〟。（山田）

夏は涼しく、冬はあたたかく、私達を守り楽しませてくれる〝なな山”を次の世代にも伝えたい。（湯元）

なな山緑地　秋のハイキング

日にち：10月9日（土）

三方の森ふれんどと東寺方児童館との共催「なな山緑地 秋のハイキング」が開催されました。5 月に次ぐ好評第 2 弾。参加者はさらに増え 60 名以上。参加された担当の方から感想です。

中の山を散策

山に入ってみて自分たちが暮らしてる足元にこんな素晴らしい里山がある事におどろきました。皆様方が植物を守って下さる様子が山に入ってみて良くわかりました。本当にありがとうございます。これまでも、三方の森ふれんど祭りの時にも、いつもお世話になっています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。（三方の森ふれんど　代表 張川紀子）

春の自然観察会は、緊急事態宣言下でしたが、子どもさんや親子連れ・シニア層が大勢参加されました。秋はさらに多くの方が参加され、豊かな自然の中、自然観察だけでなく、子どもたちとシニアの方などの世代間交流にもつながりました。なな山緑地の会の皆さんが、植物について、丁寧な説明をして下さったおかげです。参加されたシニアの方は、故郷の風景を思い出された方も少なくないでしょう。大人だけでなく、子ども達も里山の中で、とても目が輝いていました。（多摩市社会福祉協議会　石井真紀子）

気持ちのいい秋晴れの中参加させていただきました。当日は大人も子どもも混ぜた 3 チームに分かれて、なな山緑地の方に説明していただきながら普段入ることのできないなな山緑地を散策できてとても楽しかったです。みな子どもたちのことを温かく受け入れて下さり、子どもたちもパンフレットを見て本物と見比べたり、触らせてもらったりとなかなか経験できない機会を与えていただきありがとうございました。（東寺方児童館）

青山学院大ボランティア活動

日にち：11月14日（日）

１１月１４日、女子学生２名、男子学生８名、リーダー１名計１１名が参加してくれた。朝礼、写真撮影、ラジオ体操の後、宮崎会長の案内で緑地内を見学。西の谷→西の山→中の山→東の山→中の谷→西の山→広場の順でなな山を一周。作業は法面の刈草、落葉溜めの整理。人数が多く男子学生さんは力強いので作業がはかどりアッという間に綺麗になった。昼食後、午後は西の山で二小の落葉滑りの場所を整備、刈草を掃いて、滑りやすくする作業の取り組み、ゴールとなる落葉溜めも壊れていた囲いの修復をした。次いでナラ枯れ対策で巻いたビニールシートを剥がす作業に取り組んだ。、予定の時間となったので、集合写真撮影の後、今日収穫したサトイモをお土産に差し上げお別れした。（鎌田）

刈草集め作業

南鶴牧小学校 秋の植物観察

日にち：11月20日（土）

なな山に南鶴牧小の子どもたちがやってきた。こども 13 名、保護者 4 名、教師 4 名の計 21 人。今回は、植物観察に森遊びと木工体験が加わる。
広場で宮崎さんのあいさつのあと、さっそく里山を登る。ドングリの話から始まり、シイタケの原木栽培と続き、花が終わり実がなる秋の植物を観察して回る西の山を一周したあと、集めた落ち葉を熊手で敷き広げてコースを作り、ソリ滑り。山の中腹では大ブランコ。何度も乗る子が続出。広場に戻ると、アズマネザサ材を使って、松ぼっくり入りのストラップづくり。みんなほぼ同時に完成してオリジナルのストラップにご満悦。広場にレジャーシートを敷いて昼のお弁当。最後にカブトムシの幼虫を採集してなな山をあとにする。あっという間の里山体験だった。（庄子）

落葉のソリ滑り

永山小学校 PTA 行事「シノダケ・ヒンメリ作り」　日にち：12月4日（土）

出来たヒンメリを披露

永山小学校のＰＴＡ主催「シノダケ・ヒンメリ作り」に講師役として参加しました。当日は、子供たちが４０人ほど、お母さんが８人。
子どもたちは、１年生から６年生まで参加。意外にも男の子もかなり参加していました。最初は、「六面体に松ぼっくりなどの球果を入れるストラップづくり」に挑戦。私の実演を観て作ってもらいました。みんなちゃんと完成しました。
次に作ったのは、「10 面体の防水形吊り飾り入れ」。こちらは、意外に順調に進みました。
そんなことで、早く終わった子を対象に、用意していた三番目の作品作りを始めました。三作品目は、「正八面体」。早く進んでいる子を相手に作り方を教えました。すると、スゴイですね。早く作れた子が、遅れて来た子たちに作り方を教えてくれました。用意した材料のあまりを欲しい人にあげたのですが、翌日写真が送られてきました。なんと！「六芒星」！。
予想外のことが起きる醍醐味も味わうことが出来ました。写真を送ってくれた人には「部材キット」あげたいと考えているのですが、どうなるでしょう。
また少し、シノダケ・ヒンメリを楽しんでくれる人が増えるのかなと考えるとうれしいです。（中山）

多摩市消費生活フォーラム＆エコ・フェスタ　日にち：12月18日(土)・19日(日)

展示の様子

18 日午前中のブンブンゴマ作りとヒンメリ作りは、展示会場から離れた場所になっていて、会場の集会室は数組の参加者になりました。展示コーナーへの来場者数も少なかったようです。事務局から来場者数を聴いていませんが、昨年よりも少なかった模様です。でも、なかなか楽しいエコ・フェスタでした。
森木会の他のサークルの人や植物や山に関心のあるいろいろな人と話が出来ました。とても有意義な意見交換の時間が持てました。多くはありませんでしたが、ブンブンゴマで遊んだり、シノダケ・ヒンメリのストラップをプレゼントして、なな山の認知度を上げることも出来たように思います。
来年は、パルテノン多摩での開催が考えられているようです。手分けすれば、おやじの会のイベントとの同時開催も可能であると証明できたように思います。
（なな山の底力はスゴイわ。でした。）（中山）

多摩第二小学校「なな山で遊ぼう」　日にち：12月18日(土)

丸太切り体験に挑戦

参加者、午前　生徒・幼児 52 人、保護者 31 人、合計 83 人
午後　生徒・幼児 36 人、保護者 12 人、合計 48 人（保護者には、おやじの会も含まれる。）と予定されましたが、おやじの会だけで 10 人程のようでしたので、総数はもう少し多いのではないかと思います。「なな山緑地の会」の協力者は、午前・午後の半日が 3 人、一日が 6 人。
天気は快晴、予想された冷たい風はさほど感じられなかったが、体を動かしていないと冷え込みを感じる気候でした。今回は、要人二人の入病に加えて、多摩エコフェスタと重なり、特に工作に何人かの力を要したため、例年より戦力の低下が危惧されました。そこで、出来る限り「おやじの会」に主催者として主導権を持ってもらい、準備の補助と、木工指導に重点を置きました。
西の山を舞台にした、いつもの、ブランコ二様、落ち葉滑り、梯子登り、カブトムシの幼虫探し、丸太切り、滑車ロープ、ロープ渡りは、主催者に管理を委ました。
なな山のメンバーは、もっぱら木工のお相手です。今回は、例年のクリスマスリースに加え、シノダケヒンメリ、ぶんぶんゴマ、サンタクロース飾り、最後には参加者の勝手流弓矢づくりと多彩になりました。時間が来ての、流れ解散のようでしたが、誰もが十分楽しんで、名残惜しそうに帰途についていきました。混乱、けが人もなく、開催できたことをうれしく思います。（相田）

なな山植物誌

クロヤツシロラン（黒八代蘭）ラン科

なな山緑地にその存在はわかっていても、花を見たことがない植物がありました。２０１８年の１１月に中の谷の枯れ葉の中からヒョロヒョロとした茎の先にさく果（種）をつけたものをＮさんが見つけたのが最初。それが菌従属栄養植物のクロヤツシロランでした。

自分で光合成せず地中の菌類から栄養をとって生活する植物です。それから、夏の終り頃になると皆でアズマネザサの生えている枯れ葉の重なった土の上を手さぐりで探すのです。花が見つけられずに秋を迎える頃、また例の茎がヒョッコリ姿を見せて来ます。

クロヤツシロラン 名黒さん撮影 2021. 9. 22

「花が見られなかった！」　２回の残念な秋を過ぎ２０２１年９月２１日。午後の光が林床に届く時間帯、他の植物の名札をつけに中の谷を歩くと、枯れ葉の上にスポットライトを浴びたようにクロヤツシロランの花が見えました。枯れ葉と同じような色合いで肉厚な感じです。「なんだ。ここにいたの！」蚊柱の中であわてて支柱を立てた次第。３～４日して花はとけるように消えて、３週間後にはまたさく果をつけた茎が伸びてきました。

秋の終わり頃、さく果が割れて細かい種が風に飛んでいきます。（水倉）

なな山日記（活動・観察記録）

No. 418　2021年10月10日（日）　曇後晴　気温　22℃
参加者　15人
緊急事態宣言が解除したため、終日活動を再開した。
● 作業/ 東の山シノタケ整理、畑作業、ヒノキとクヌギの枝打ち、道具修理。
● 観察/カシワバハグマ、キチジョウソウ。

No. 419　2021年10月24日（日）　晴　気温　20℃
参加者　19人
秋の快適な活動日となった。
● 作業/ サツマイモ、ニラ、ハヤトウリの収穫、法面上部の刈払い、遊歩道の階段整備等。
● 観察/コウヤボウキ、シロヨメナ、フユノハナワラビ。

No. 420　2021年11月14日（日）　晴　気温　16℃
参加者　16人（+青山学院ボランティア 11 名）
青山学院のボランティア・コーディネーターのマンパワーによりたくさんの作業ができた。
● 作業/ サトイモ、ハヤトウリの収穫、玉ねぎ苗の植付け、梅の剪定、西の山の刈払い・刈草の整理。

No. 421　2021年11月28日（日）　晴　気温　14℃
参加者　16人
小春日和の活動しやすい一日となった。
● 作業/ 堆肥の掘り起こしとすき込み、西の山の刈払い、ハヤトウリの刈取り、来訪者対応等。
● 観察/カラタチバナ、センリョウ。

No. 422　2021年12月12日（日）　晴　気温　18 ℃
参加者　19人
歩道の落葉清掃は一日作業となった。
● 作業/リース台作り、バス通り歩道沿い刈払い、落葉清掃、イベント準備、サトイモの種芋保存等。
● 観察/ワタ、ゴンズイ。

No. 423　2021年12月26日（日）　晴　気温　10℃
参加者　18人
色々大変な一年だったが、皆で力合わせ無事山仕舞いをすることができた。
● 作業/ バス通り歩道の清掃、西の山の刈払い等。
● 観察/ロウバイ。

編集後記

明けましておめでとうございます。昨年はコロナとナラ枯れという災厄に加え宮﨑会長と庄子さんの入院という大変な事態となりました。まさになな山のピンチでした。でも、この状況にめげずに二人の幹事を中心に全員がまとまって通常活動、イベント活動をこなし見事に乗り切って新年を迎えました。なな山だよりはイベントを紹介する記事であふれています。さあ今年もがんばっていきましょう。K

なな山だより　第54号　2022年 1月 9日発行

発　　行　なな山緑地の会
発行責任者　宮﨑 裕
住　　所　東京都多摩市関戸 2-9-6
ホームページ　https://nanayamaryokuti.jimdofree.com/
編集委員　鎌田 文雄　飯田 歩